

# カナリア事情

平成30年3月現在

在ラスパルマス領事事務所

1. 概観.....	1
(1)沿革.....	1
(2)地形・気候.....	2
(3)地誌(面積・人口・主要都市).....	3
2. 政治.....	4
(1)国会(CORTES).....	4
(2)自治州政府(GOBIERNO AUTONOMO).....	5
(3)島自治政府(CABILDO).....	6
(4)市(AYUNTAMIENTO).....	6
(5)中央政府代表部(DELEGACION DEL GOBIERNO).....	6
3. 経済.....	7
(1)概況.....	7
(2)指標.....	7
(3)経済政策.....	8
(4)社会資本整備.....	10
4. 産業.....	11
(1)概況.....	11
(2)農業.....	11
(3)漁業・水産.....	11
(4)港湾.....	12
(5)観光.....	14
(6)貿易.....	17
5. 社会・文化.....	18
(1)社会情勢.....	18
(2)教育・文化.....	18

6. 日本との関係.....	19
(1)水産.....	19
(2)漁業基地.....	19
(3)貿易.....	20
(4)在留邦人.....	20

## 1. 概観

### (1)沿革

カナリア諸島の起源については種々説がある。ロマンティックなものでは海中に没した幻のアトランティス大陸の一部とする説があるが、今日、最も信頼されている説は、大西洋の膨脹に伴う海底の亀裂を原因とする多発火山により成立したというものである。最初の噴火は第三紀層の頃と推定されており、近年における大規模な火山噴火として、1971年に発生したラパルマ島のテネギア山の噴火が挙げられる。また、2011年10月にはエルイエロ島南西沖の海底火山が噴火し、小康状態ながら現在も地震活動が計測されている。

テネリフェ島にあるテイデ山は、スペインの最高峰(3,718メートル)であると同時に活火山でもあり、現在も軽微な活動が続いている。

カナリア諸島はローマ時代から存在が知られており、「カナリア」という名の由来は、ローマ人が初めてこの地に上陸したとき、犬が多く生息しているのを見て、「*Insula Canum*」(ラテン語で「犬の島」の意)と呼んだことに因むといわれている。小鳥のカナリアの名前は、この島原産の小鳥フィンチに島名の「カナリア」をつけたもので、観賞用に改良されたものである。

もともとカナリア諸島には原住民(*aborígenes*)が住んでおり、海岸近くの洞窟を住処とし、主に農牧及び漁労により生計を営み、社会組織はかなり進んでいたようである。ただし、金属の使用については知らなかったとされている。

ヨーロッパからの侵攻は、1402年のノルマンディーの貴族ベタンクールにより本格的に始まり、ポルトガル、次いでスペインによる攻撃が繰り返し行われた。1479年にアルカソバス条約により、ポルトガル・スペイン間で基本的な支配の枠組みが定まったことにより、スペインによる攻撃が本格化した。原住民はその都度勇敢に抵抗したため、1483年にグランカナリア島が、1496年にテネリフェ島がスペインの支配下におかれるまで実に90余年の歳月を要した。

この間、1492年にはコロンブスがアメリカ大陸への大航海の途次、ラゴメラ島に寄港し補給を行っているほか、グランカナリア島では船の修理も行っており、カナリア諸島が彼の偉業の拠点となったことが歴史的事実として記録されている。

カナリア諸島は、ヨーロッパからアメリカ大陸及びアフリカ大陸への海上交通の要路に当たするため、その後も数多くの侵略攻撃を受けている。最も著名なものは、テネリフェ島へのイギリスによる3大攻撃(1657年のブラック、1706年のヘミング、1797年のネルソンによるもの)で、現在サンタクルス・デ・テネリフェ市の紋章に3つの豹の頭として象徴されている。しかしながら、外国艦隊の攻撃はその都度撃退され、1797年のネルソンの攻撃を最後に途絶えた。

スペインは、1822年にサンタクルス・デ・テネリフェ市(テネリフェ島)をカナリア諸島の首都とし、自由貿易港制度を発足させ、カナリア経済の基盤がここに整えられた。

その後、1927年には行政単位としてラスパルマス県とサンタクルス・デ・テネリフェ県に二分、1982年に両県は憲法の規定に従い、スペイン本土の他の地方の州と並んでカナリア自治州として発足し、従来中央政府の所管であった権限の幾つかが移管された。

1986年のスペインのEC加盟後、カナリア自治州は、1991年まで本土と異なる特別の地位(自由貿易港の存続、付加価値税の非導入、EC共同農業政策の非適用等)を認められていた。

## (2)地形・気候

カナリア諸島は火山性の地形を有しており、面積が小さいにもかかわらず中央部は高い山岳地帯を形成している。特にテネリフェ島にはスペインの最高峰であるテイデ山(3,718メートル)が雄姿を見せており、また、グランカナリア島には2,000メートル級のテヘダ山(1,949メートル)がある。

気候は基本的に地中海性気候に属しているが、アフリカ大陸、特にサハラ砂漠に近いこと、北東貿易風帯の北縁(亜熱帯高圧帯)にあること、高い山があることなどにより各島及び海拔ほとんど特色のあるものとなっている。

一般に気候は温暖で、気温の年較差が少なく(年間平均気温約21度)、また降水量も極めて少ない。各島はアフリカ大陸に近い島ほど乾燥し緑が少なくなる傾向にあり、年に数回、サハラ砂漠からシロコ(sirocco)と呼ばれる熱風が襲来し、高温になるとともに空は砂の微粒子のためどんよりと霞んでしまう。

### (3)地誌(面積・人口・主要都市)

カナリア諸島は、アフリカ西岸サハラ沖(北緯27度37分～29度24分(わが国の奄美大島とほぼ同緯度)、西経13度20分～18度10分)に東西に浮かぶ7つの島からなり、スペイン本土まで約1,100キロ、アフリカ大陸西海岸まで約115キロの距離にある。

これら7つの島は、東側3島(グランカナリア島、フェルテVENTOURA島、ランサローテ島)からなるラスパルマス県と西側4島(テネリフェ島、ラパルマ島、ラゴメラ島、エルイエロ島)からなるサンタクルス・デ・テネリフェ県に分かれており、両県でカナリア自治州を構成している。

面積及び人口は次表のとおりで、7島の合計面積は約7,447平方キロメートルでほぼ宮城県と同程度である。ラスパルマス県の県都はグランカナリア島ラスパルマス市(人口37万7,650人)に、サンタクルス・デ・テネリフェ県の県都はテネリフェ島サンタクルス・デ・テネリフェ市(同20万3,692人)にあり、それぞれ県の中心都市となっている。

島名		面積 km <sup>2</sup>	人口(2017年)	
カナリア自治州		7,447	210万	8,121人
内 訳	ラス パ ル マ ス 県	グランカナリア	1,560	84万 3,158人
		フェルテVENTOURA	1,660	11万 299人
		ランサローテ	846	14万 7,023人
	サン タ ク ル ス ・ デ ・ テ ネ リ フェ 県	テネリフェ	2,034	89万 4,636人
		ラパルマ	708	8万 1,350人
		ラゴメラ	370	2万 976人
		エルイエロ	269	1万 679人

出典: Instituto Nacional de Estadística(国家統計局)

## 2. 政治

### (1) 国会(CORTES)

#### (イ) 上院(SENADO)

カナリア自治州7島の各島より、以下の配分にて計11名選出され、カナリア自治州議会が任命する3名の議員と合わせ計14名の議員枠がある。2016年12月のスペイン総選挙の結果、現在の島別・党別議席数は次のとおり。(任期は2016年11月～2020年11月)

島名	人数	内訳
グランカナリア島	3	民衆党(PP) 2, カナリア連合(CC) 1
ランサローテ島	1	PP
フェルテVENTOURA島	1	PP
テネリフェ島	3	PP 2, 社会労働者党(PSOE) 1
ラパルマ島	1	PP
ラゴメラ島	1	PP
エルイエロ島	1	CC
自治州議会任命	3	PP 1, PSOE 1, CC 1
計	14名	PP 9, PSOE 2, CC 3

#### (ロ) 下院(CONGRESO)

県別に議席枠が決められており、ラスパルマス県8議席、サンタクルス・デ・テネリフェ県7議席の計15席が現在選出されている。2016年11月のスペイン総選挙の結果、現在の政党別議席は次のとおり。(任期は2016年11月～2020年11月)

政党名	ラスパルマス県	サンタクルス・デ・テネリフェ県	計
PP	3	3	6
ポデモス党(PODEMOS)	2	1	3
カナリア連合-新カナリア党(CC-NC)	1	1	2
PSOE	1	1	2
市民党(C's)	1	1	2
計	8名	7名	15名

## (2)自治州政府(GOBIERNO AUTONOMO)

カナリア自治州政府の首相は、自治州議会(Parlamento)の議員(Diputado)から選出される(任期は4年)。自治州議員は、カナリア全7島より島毎の枠で60名選出される。

カナリア政界の主要政治勢力は従来CC, PP, PSC(カナリア社会党)の三党となっていたが、近年、スペインの他の地域同様、ポデモス党(PODEMOS)やシウダダノス党(C's)といった新興政党が台頭している。

2015年5月に行われた地方選挙の結果、PSCが最大投票数となる19.85%を獲得したが、県都所在島以外の5島で勝利したCCが18議席を得て、PSCと連立政権関係を継続し、第9立法期カナリア自治州政府を発足させたが、その後2016年末にCCはPSCとの連立政権を解消。その後、議席数過半数に満たないが、最大勢力として継続して政権を維持している。

2017年1月以降、現在の自治州知事は、CC党首フェルナンド・クラビホ・バトゥジェ(Fernando Clavijo Batlle)氏、副知事はパブロ・ロドリゲス・バリド(Pablo Rodríguez Valido)氏で、副知事は公共事業・運輸庁長官を兼任している。

現在の各党の議席数は次のとおり。(任期は2015年7月～2019年5月)

カナリア自治州議会勢力分布(Diputados 定員 60)

政 党 名		議席数
与党	カナリア連合(CC)	18
野党	カナリア社会党(PSC)	15
	民衆党(PP)	12
	ポデモス党(PODEMOS)	7
	新カナリア党(NC)	5
	その他	3

カナリア自治州の州都は、ラスパルマス市とサンタクルス・デ・テネリフェ市で4年ほとんど遷都される(2018年3月現在の州都はラスパルマス市)。ただし、州政府庁舎は両市に置かれており、近年、州知事は出身島の庁舎で執務を行うのが慣例化している(現在のクラビホ知事はテネリフェ島出身のため、州都がラスパルマス市でありながら、主としてサンタクルス・デ・テネリフェ市で執務を行っている。)。カナリア自治州議会は、サンタクルス・デ・テネリフェ市に置かれている。



### (3) 島自治政府(CABILDO)

各島(7島)には、それぞれ島自治政府が置かれ、島議員(Consejeros)は、地方選挙で各島民によって選出され(任期4年)、その数は、島の人口に応じ変動する。

グランカナリア島では、2015年5月の統一地方選挙で、与党はPPからNC、PSC、PODEMOSの三党連立に代わった。

### (4) 市(AYUNTAMIENTO)

各島は市(Ayuntamiento)に区分される。7島で88市に上る。市議会議員(Concejal)は市民の普通選挙によって選出され(任期4年)、その議員数は、市の人口に応じ変動する。ラスパルマス市は、2015年5月の統一地方選挙で、与党はPPからPSC、PODEMOS、NCの三党連立に代わった。

注1. 島自治政府及び市とも予算は、カナリア自治州より配分される。

注2. 島自治政府及び市の議員の選挙は、自治州と同時期に統一地方選挙(州、島、市とも比例代表制)として実施される。

注3. 自治州知事、島長、市長は与党名簿の第1順位者となる。連立の場合は、協議による。

### (5) 中央政府代表部(DELEGACION DEL GOBIERNO)

地方自治体とは別に、スペイン国内の各自治州には中央政府代表部(Delegación del Gobierno)が置かれており、その長である州中央政府代表(Delegada del Gobierno)は中央政府より任命される。

カナリア自治州においては、中央政府代表部がラスパルマス市にあり、その下に中央政府副代表部(Subdelegación del Gobierno)がラスパルマス市(ラスパルマス県)及びサンタクルス・デ・テネリフェ市(サンタクルス・デ・テネリフェ県)にそれぞれ置かれている。

また、グランカナリア島及びテネリフェ島以外の5島には、それぞれ中央政府担当部(Dirección Insular de la Administración General del Estado)が置かれている。

### 3. 経済

#### (1) 概況

カナリア諸島の産業は、観光・港湾サービスの第三次産業が主たるものであり、就労人口全体の6割弱を占めるなど、従来観光を中心とした第三次産業を主体とする経済構造となっている。第一次産業の中で、農業については、主要輸出産物であるトマト及びバナナがそれぞれモロッコ、中南米との競争にさらされて停滞気味である。

一方、観光を中心とした第三次産業は、これまでの著しい観光客数の増大を背景に、カナリア経済の牽引車の役割を果たしている。

#### (2) 指標

カナリア自治州の主な経済指標は次の通り。

指標	カナリア自治州		スペイン		備考
① GDP	424億	5,960 万ユーロ	(全体比)	3.8 %	2016年暫定
② GDP成長率		3.8 %	(平均)	3.6 %	〃
③ 労働者数		111万8,200 人	(全体比)	4.9 %	2017年第4四半期
④ 就業者数		87万1,800 人	(全体比)	4.6 %	〃
⑤ 失業者数		24万6,400 人	(全体比)	6.5 %	〃
⑥ 失業率		22.04 %	(平均)	16.55 %	〃
⑦ 物価上昇率		1.1 %	(平均)	1.1 %	2017年
⑧ 貿易	輸入	33億 9,193 万ユーロ	---		2016年暫定
	輸出	20億 6,181 万ユーロ	---		
	収支	-13億 3,012 万ユーロ	---		

出典：①～⑦ Instituto Nacional de Estadística(国家統計局)  
⑧ Instituto Español de Comercio Exterior(スペイン貿易庁)

### (3)経済政策

従来から、カナリア自治州では海外からの企業誘致・投資促進施策を進めることが大きな政策課題となっており、その代表が2000年1月にEUの承認を得て制度が整ったZEC (Zona Especial Canaria)である。また、ZEC以外にもその他の特別優遇措置があり、これらの概要は(口)に記述するとおりである。

#### (イ)ZEC(カナリア経済特別区域制度)の概要

##### ZECにおける優遇措置

カナリア自治州7島内にZECを定め、同区域内で活動するZEC企業に対し、法人税が1～5%の間の課税率(通常税率35%, 中小企業の場合は30%)となる優遇税制措置が与えられる。また「資産移転税及び公文書税」、「カナリア間接税(IGIC)」などについてもZEC企業に対する優遇税制措置が適用される。

##### ZEC企業の対象

カナリア自治州内において金融業を除く製造業、商業及びサービス業に従事するすべての企業が対象となり、ZEC企業として登録ができる。

2016年時点での登録企業数は522社と、前年比93社増加。雇用者数も、4,879人と、3年間で983人増加となる雇用を創出した。

企業ZEC内で活動する企業の分野は、サービス業、通信業、流通業が中心だが、近年ではその内容も、再生可能エネルギー、バイオテクノロジー、放送、航空業界等と多様化。特に船舶修繕・メンテナンス事業への投資が増えている。

投資額の内訳は、ドイツ、イタリア、ノルウェー、イギリスの欧州を中心とした外国企業からの投資が57%、スペイン本土からが17%となっている。

##### ZECの有効期間

ZECの有効期間は、EU委員会とカナリア自治州政府との間で2026年までに決定。

#### (ロ) グランカナリア免税地区(LA ZONA FRANCA DE GRAN CANARIA)の概要

ZECとは別の制度で、当該地区内での「非EU」に対する企業活動について原則免税とするもの。1992年のEU完全加盟時から与えられた特別優遇措置である。非EUを対象とした活動であるためEUの承認を必要とせず、スペインでは国内的にラスパルマス港湾内地区における保管倉庫業、加工業、流通業を対象に1998年に経済・財政省の許可がなされた。

また、グランカナリア空港とアリナガ港に近いアリナガ工業地区内に約2万5千平方メートルの免税地区が開設され企業進出が進んでいる。

スペイン国内には、既に同様の地区がカディス、バルセロナ及びビゴに開設されているが、グランカナリア島については、アフリカに近接しているという地理的特徴から他地域よりも高い注目を集めている。

#### (ハ) カナリア自治州におけるその他の特別優遇措置

1994年7月に改正されたREF法(カナリア経済財政制度法)は、カナリア自治州への投資を促進する観点から、カナリア自治州にあるZEC企業以外の企業などに対しても次の特別優遇措置を定めている。

##### ZEC企業以外の企業に対する税制優遇措置

- カナリア自治州における会社設立、拡張、設備の近代化、移転等に関する納税義務の免除(公文書税の免除)
- 資産、権利等の財産取得に対する納税義務の免除(資産移転税の免除)
- 投資準備金に対する納税義務の90%までの軽減
- カナリア自治州で生産された物産の輸出により得た利益に対し、その法人税を40%軽減

##### 船舶の登録に関する優遇措置

- 資産移転税の免除
- 登録済船舶の乗組員に対する所得税の15%軽減
- 法人税の35%軽減
- 社会保険の企業負担額の50%割引

#### (4)社会資本整備

スペインにおいては、2020年を目処とした交通インフラ大綱(PEIT)がまとめられ、各地で整備事業が進められているが、カナリア自治州においても道路、鉄道、港湾、空港等の各交通インフラの整備が進められている。

近年カナリア自治州における主な事業として、2018年竣工を予定に進められているラスパルマス港拡張事業、2010年に完了したフェルテVENTOURA島空港の拡張・近代化工事及びグランカナリア島空港拡張工事等のカナリア空港インフラ整備事業がある。グランカナリア島の空港拡張工事完了後には、現在より400万人増となる年間1,650万人の利用が可能となる。

また、カナリア自治州においてはその地理的特性を生かし、自然(再生可能)エネルギーを利用した事業が進められており、豊富な太陽光や風力を利用した発電施設は既に数多く運用されている。

2014年6月には30年に及ぶ計画が実を結び、エルイエロ島で風力と水力を混合したゴロナ・デル・ビエント発電所が始動。近い将来、島内全世帯における再生可能エネルギー使用率100%の実現が期待される。

この他、近年では、海水淡水化プラントを含む揚水発電所新設事業が発表されたほか、海洋エネルギーである波力を利用した波力発電実験プラントも計画されている。

## 4. 産業

### (1) 概況

2016年のカナリア自治州における産業別就業人口に占める割合は、観光を中心としたサービス業従事者が60%弱と、カナリア経済を支えている。

#### カナリア自治州産業別就業人口率（2016年暫定値）

① サービス業	56.74 %
② 行政	21.88 %
③ 芸術・文化	8.66 %
④ 建設業	5.14 %
⑤ 製造業	5.02 %
⑥ 農業・漁業	2.56 %

出典：Instituto Nacional de Estadística(国家統計局)

### (2) 農業

カナリア諸島の主要農産物は、バナナ、トマト、ジャガイモ、キュウリ、ピーマンなどで、バナナはほとんどスペイン本土に、その他は当地の温暖な気候を利用して1年中栽培されていることから、冬の時期にEU諸国へ輸出されているが、近年ではモロッコ(トマト)や中南米諸国(バナナ)との競争が激化している。また、トロピカルフルーツ、花木等の栽培も進められている。

また、ラパルマ島、エルイエロ島を中心に栽培されるバナナは、2013年11月、EUからその生産方法の伝統性が認められ、カナリア諸島の生産物としてはカナリア産ジャガイモに次ぐ2種類目となる地理的表示保護(IGP)の認定を受けた。

### (3) 漁業・水産

漁業はラスパルマス県が中心で、漁船のほとんどはラスパルマス港を中心としたラスパルマス県の港を基地としている。2001年から操業区域の縮小を余儀なくされていたカナリア自治州所属船約30隻は、2012年8月からのEU－モーリタニア新漁業協定施行(2018年7月末まで有効)及び2013年のEU－モロッコ漁業協定更新に基づき、両海域での操業が再開。再活性化が期待されている。

#### (4) 港湾

カナリア諸島は大西洋航路の要所(ヨーロッパ, アフリカ, 南北アメリカ大陸の中間地点)にあることから, グランカナリア島にあるラスパルマス港, テネリフェ島にあるサンタクルス・デ・テネリフェ港を中心に, 古くから船舶の補給・修理基地として栄え, かつては自由貿易港としての性格と共にカナリア経済の発展の礎となった。

##### ○ラスパルマス港

ラスパルマス港の歴史は1492年, コロンブスが新大陸発見の航海へ出発する前にラピンタ号及びラニーニャ号の修繕・補給を現在の港湾施設のある湾内で行ったことに遡る。

1883年に近代的な港湾としての設備の着工を始め, 今年で開港135年を迎えるラスパルマス港は, カナリア諸島の経済発展を常に支えてきた。1998年より20年間にわたり進められた港湾拡張事業計画により, ラスパルマス港は近代港としての更なる躍進を遂げ, スペインにおける国際貨物取扱及びコンテナ取扱の重要なハブ港となっている。

ラスパルマス港は, 大西洋のほぼ中央に位置するという地理的優位性を生かし, 古くからヨーロッパ, 南北アメリカ大陸及びアフリカ大陸間航路のハブ港として利用されているが, 現在進められている港湾拡張事業により更なる港湾機能の充実が図られ, 近年では1万TEUS\*を超える大型コンテナ船の入港が可能となった。また, ギニア湾で活動する海底資源掘削プラットフォームの修繕事業もラスパルマス港の重要な活動となっている。

2016年におけるラスパルマス港の動きを他のスペイン国内各港と比較すると, 国内コンテナ取扱量第1位(43万1,966TEUS), 燃料・水等を補給する補給取扱量では260万7,283トンと, スペイン本土の要所アルヘシラス港に次いで第2位, 経由貨物及び経由コンテナ取扱量では第3位, 総入港隻数では第4位となっており, 世界135カ国・地域約500港から約1万2,000隻以上の船舶がラスパルマス港を利用した。

また, 2013年10月には, クルーズ船専用埠頭の整備が終わり, 数隻の大型クルーズ船の同時入港が可能となったことから, 中部大西洋海域の一大発着港となり, 2016年におけるラスパルマス港へのクルーズ船入港状況は, 隻数ベースで524隻全国第4位, 乗客数では約110万人で第3位となった。

\* TEU(S)とは、標準的な大きさのコンテナ(標準的な長さ20フィート・幅8フィート・高さ8.5フィートというコンテナの容積は1,360立方フィート(39立方メートル))1個分相当というおおよその容積を示す単位をいう。

加えて、港湾施設内では2017年末に、主に中部大西洋に生息する魚類を集めた欧州最大規模の水族館「ポエマ・デル・マール(Poema del Mar)」がオープン。同施設を港湾地区へのアクセスポイントとして、市中心部との往来を容易にする歩道橋の建設等のプロジェクトが進められている。これにより、クルーズ船からの集客が期待されている。

現在のラスパルマス港は、以前のような自由貿易港ではないが、中部大西洋随一の優れた港湾施設により、ハブ港として多様な発展を続けており、2009年には国際赤十字・赤新月社連盟(本部:ジュネーブ)が、2010年には国連世界食糧計画(WFP)、2011年には米国の国際開発庁(USAID)がそれぞれ西アフリカへの人道的物資援助拠点として支援物資備蓄基地を設置し活動を開始。現在では、WFPの世界五大援助港の一つとなっている。西アフリカ諸国及びサヘル地域への食糧・援助物資搬出を中心に活動を行っている。

ラスパルマス入港主要外国籍船舶数(2017年)

(延べ隻数)

商 船		漁 船	
国 名	隻 数	国 名	隻 数
ポルトガル	939	日本	91
パナマ	883	モロッコ	30
マルタ	795	中国	17
リベリア	525	イギリス	15
イタリア	519	モーリタニア	13
日本	2	—	—

出典: Autoridad Portuaria de Las Palmas(ラスパルマス港湾局)



## (5)観光

### (イ)概要

カナリア諸島は一年中気候が温暖なことから、1960年代からドイツ、イギリス、北欧諸国を主としてヨーロッパ各国からの避暑・避寒のため、観光客が1年中訪れるようになり、観光地として発展した。カナリア経済において主要産業となっている観光業は就業者数でも3割強を占めている。

外国人観光客は、ヨーロッパ各国の地方都市からチャーター便を利用して数時間で到着できるという便利さや、カナリア自治州政府の積極的な観光客誘致政策を背景に、1997年以降順調に増加。2010年以降の格安航空会社(LCC)の運行便数の増加、北アフリカ諸国の政情不安を受けた欧州諸国の観光客の一部によるカナリア諸島への旅行先の変更等の理由で、2017年には史上最高となる約1,431万人の外国人観光客数を記録した。

これらの客は、近年建設や整備が進んだ大型リゾートホテルを利用し、付帯施設(プール、タラソテラピー、ゴルフ場、カジノ等)で一日中楽しむ傾向にあるが、サーフィン、スキューバダイビング、シュノーケリングといったマリンスポーツや、トレッキング、登山等のアウトドアスポーツも大変盛んである。

また、前述にもあるように、カナリア自治州2県の県都である、ラスパルマス市とサンタクルス・デ・テネリフェ市は、北西アフリカに隣接し、総称してマカロネシアと呼ばれる中部大西洋のカナリア諸島、ポルトガルのアゾレス諸島及びマデイラ諸島を周遊する旅客船(クルーズ船)の寄港地及び発着港ともなっている。

外国人観光客数の推移

暦年	観客数		伸び率(対前年比)
2013	1,059万	1,260人	4.9%
2014	1,151万	1,108人	8.7%
2015	1,176万	5,227人	2.2%
2016	1,341万	6,398人	14.0%
2017	1,431万	373人	7.3%

出典:Gobierno de Canarias (カナリア自治州政府)

## (ロ)カナリア諸島の特徴

東西に並ぶカナリア諸島を構成する7つの島は、アフリカ大陸の気候の影響を受ける度合いが異なる(アフリカに近い程乾燥している。)ため、それぞれ異なった様相を見せ、観光客誘致の目玉も異なっている。アフリカ大陸西海岸から約115kmと、距離の近いラスパルマス県の3島(ランサローテ島, フェルテVENTOURA島, グランカナリア島)では、溶岩, 砂漠, 美しい海岸などが特徴となっているが、これとは対照的に、アフリカから離れたサンタクルス・デ・ネリフェ島の4島(テネリフェ島, ラパルマ島, ラゴメラ島, エルイエロ島)では、深く美しい緑が特徴となっている。

カナリア諸島には3つの世界遺産があり、テネリフェ島にあるスペイン最高峰テイデ山(3,718m)があるテイデ国立公園(自然)が2007年、サンクリストバル・デ・ララゲーナ市の旧市街(文化)が1994年、ラゴメラ島のガラホナイ国立公園(自然)が1986年にそれぞれ世界遺産に指定されている。

また、ラパルマ島の山頂付近には、世界有数の天体観測施設であるロケ・デ・ロス・ムチャチョス天文台がある。同天文台には口径10.5mのカナリア大望遠鏡が設置されている他に、日本が主導するガンマ線の調査を行うCTA計画の一環として、口径23mの世界最大規模のガンマ線望遠鏡であるCTA大口径望遠鏡の建設が進められている。

## (ハ)国別観光客数

国別に観光客数を見ると、イギリス及びドイツからの観光客が圧倒的に多く、2017年ではそれぞれ約527万人、312万人に達し、全体の6割強を占めている。

スペインを除く観光客主要国籍(2017年)

順位	国名	観光客数
1	イギリス	526万7,514人
2	ドイツ	312万4,223人
3	スウェーデン	65万2,344人
4	オランダ	64万8,508人
5	イタリア	53万2,836人

出典:Gobierno de Canarias(カナリア自治州政府)

## (ニ)主要イベント

カナリア諸島で開催される代表的観光イベントとしては、毎年2～3月にかけて約3週間にわたり開催されるカーニバルがその筆頭に挙げられる。特に、テネリフェ島のカーニバルは1945年に起源を有し有名である。

1984年から欧州唯一の冬季音楽祭である「カナリア国際音楽祭」がラスパルマス市及びサンタクルス・デ・テネリフェ市を中心にカナリア自治州全島で毎年1～2月頃開催され、2000年から始まった「ラスパルマス市国際映画祭」(毎年春)などの文化事業にも力を入れている。

また、スポーツの分野では、フェルテベントウーラ島で開催される「ウィンドサーフィン世界選手権」(毎春)や、グランカナリア島の特徴ある地形・山岳等を生かした「ウルトラ・トレイル世界選手権」(毎春)、同じくグランカナリア島からカリブ海セントルシア島に向け大西洋を横断するヨットレース「大西洋横断ヨットレース(ARC)」(毎年11月頃)が開催されている。

## (6)貿易

カナリア諸島の主要輸出品は、石油製品及び農産物等で、輸入品は、鉱油、機械類、自動車等となっている。

カナリア諸島は、商品を諸島外から輸入し、観光で稼ぐという産業構造のため、貿易収支は慢性的に赤字(貿易外収支(主に観光)は黒字)となっている。

カナリア貿易高

(単位:万ユーロ)

暦年	輸 入	輸 出	貿易収支
2012	35億 5,568	7億 9,185	-27億 6,383
2013	43億 5,739	26億 707	-17億 6,383
2014	35億 5,599	23億 9,254	-11億 6,345
2015	29億 9,151	24億 5,258	-5億 3,893
2016	33億 9,193	20億 6,181	-13億 3,012

主な貿易相手国(2016年金額ベース)

輸入:①ドイツ ②フランス ③イタリア ④オランダ ⑤イギリス

輸出:①フランス ②ドイツ ③イタリア ④イギリス ⑤ポルトガル

出典: Dirección General de Aduanas(スペイン税関当局)

## 5. 社会・文化

### (1) 社会情勢

スペイン本土と比べ、カナリア諸島は歴史の経緯からみても社会・文化面において独自性があり、一方では人々の素朴さも特徴といわれている。また、テロ事実は近年発生しておらず、治安も一般に良好である。しかしながら、カナリア諸島はアフリカ大陸西海岸まで約115キロと近い位置にあることから、北西アフリカ諸国からの小型船による不法入国者が問題となっており、到着者数は一時に比べ減少したものの、スペイン政府は注意を払っている。

また、国際的には20世紀の初め、中南米に多くのカナリア人が移住したことから、特にベネズエラやキューバとの交流が盛んである。

### (2) 教育・文化

公立大学は、グランカナリア島(ラスパルマス大学)及びサンタクルス・デ・テネリフェ島(ララゲーナ大学)に一校ずつ設置されている。

カナリア諸島は、スペイン本土の文化に加え、地理的にはむしろアフリカに近いこと、歴史的には原住民の固有文化を受け継いでいることなど多くの文化を伝承してきており、それらが手芸、陶器、音楽に表現されている。

また、カナリア諸島からは、ペレス・ガルドス(作家)、セサル・マンリケ(芸術家)、アルフレド・クラウス(声楽家)、マノロ・ブランク(靴デザイナー)、ハビエル・バルデム(俳優)等の著名な人物も輩出している。

## 6. 日本との関係

### (1)水産

1959年に我が国のトロール船がサハラ沖に鯛の漁場を発見、その後、たこ、いか類の漁場が開発されて以来、当地を基地として我が国トロール船団がサハラ沖にて操業しており、当時からラスパルマスを基地として大西洋で操業していたマグロ漁船団とも併せて、最盛期の1970年代前半には延べ500隻に上る日本籍船舶が当地に入港していた。これらに乗船する日本人乗組員数も年間1万人を超えており、当地で海外基地漁業に従事する日本人船員の福利厚生のため、海外の保養施設としては初めての設置となるラスパルマス日本船員保険福祉会館(当地名:カサ・デル・ハポン(Casa del Japón))が昭和42年4月に開設された(昭和60年12月閉鎖)。

その後、各国の経済水域拡大の機運が高まると共にトロール船団は徐々に減少し、1982年を最後に我が国トロール船はほぼ全面撤退した。以後、主にマグロ漁船団が当地を基地として利用しており、たこ、いか等については、獲る漁業から買う漁業に転換、当地駐在の我が国水産会社、商社はスペイン、モロッコ、モーリタニア等の漁船からこれらを買っている。

### (2)漁業基地

西アフリカ諸国が排他的経済水域を設定した影響等によりトロール船が撤退した後、マグロ漁船がラスパルマス港を利用する主体となっている。特に、乗組員に休暇を与える休漁期間中には船員を当地から空路帰国させ、その間船舶を当地に係留し専門業者が整備・修繕を行うという様に、海外拠点・基地化が進んでいる。

同時に、この日本漁船が日本に戻らないという運航パターンに対応して、ラスパルマス港における定期的な船舶検査及び管海事務等が重要となっている。当地には国土交通省の船舶検査官が常駐しており、一年を通じ日本船が船舶検査を受検できる大西洋における唯一の地となっていることも、ラスパルマス港が海外漁業基地として機能する所以である。

2017年は、94隻(漁船91隻、漁業取締船1隻、商船2隻)の日本船がラスパルマス港に寄港している。これに対し、カナリア諸島の2大港湾の一つであるサンタクルス・デ・テネリフェ港は、日本船との係わりは少ない。

### (3)貿易

カナリア諸島からは主に魚介類(たこ, いか等)が日本に輸出されており, EU-モロッコ漁業協定の影響を受けたものの, 2016年においては対日輸出の75%以上を占めている。日本からの輸入品の55%は, 自動車, 電気機器等である。

#### 対日貿易額

(単位: 万ユーロ)

暦年	輸 入	輸 出	貿易収支
2012	1,811	545	-1,266
2013	1,136	954	-182
2014	1,612	1,600	-12
2015	1,842	1,675	-167
2016	2,031	2,320	289

出典: Dirección General de Aduanas (スペイン税関当局)

### (4)在留邦人

ほとんどがグランカナリア島ラスパルマス市及びその近郊に居住している。同島以外では, テネリフェ島約60人, ランサローテ島, フェルテVENTウーラ島及びラパルマ島に各数人となっている。

#### カナリア在留邦人数(2016年10月1日現在)

島 名	人 数
グランカナリア島	132 人
テネリフェ島	58 人
ランサローテ島	3 人
ラパルマ島	3 人
フェルテVENTウーラ島	1 人
合計	197 人

在留邦人の多くの世帯は水産関連業に従事し, 船舶の補給・整備関連事業や, 当地を拠点とした主に西アフリカを中心とした水産物の買付を行っている。以前は, 水産会社や商社水産部門の駐在員が数多く滞在していたが, 現在は出張ベースでの買付が主となったこともあり, ほとんどの駐在員事務所が閉鎖された。

日本人学校は, 1973年に開校され27年間にわたり子女教育並びに在留邦人の活動の拠点として存在してきたが, 2001年に休校, 翌2002年4月に閉校となった。

(了)